

自己評価				学校関係者評価	
学校運営計画(4月)			評価(総合)	評価(総合)	自己評価は
<p>学校運営方針</p> <p>1 学習活動・学校行事等において生徒の主体性を重視しつつ、生徒の実態に目を向けて、一人一人に寄り添った教育活動を推進する。  2 多様化する社会に柔軟に対応するため、いじめや差別を生まない「人権教育」、校則等の在り方を考える「法理解教育」、生き方・在り方につながる「探究活動」に取り組む。  3 自己実現を図る進路目標を設定させ、その達成を支えるチーム支援体制と高い目標にも挑戦できる進路指導体制を構築する。</p>					<p>A : 適切である</p> <p>B : 概ね適切である</p> <p>C : やや適切である</p> <p>D : 不適切である</p>
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標		
<p>新教育課程を踏まえた時刻の見直しや観点別評価を職員間での協議や研修を通じ実施することができた。また、感染対策を取りながら、風船祭や体育祭等の学校行事が主体となって3年ぶりに通常開催し、成功に導いた。さらに、アンケート等にGoogle Forms等のICTを活用したり、職員間の連絡にポータルサイトを活用することで、業務量を削減できた。</p> <p>一方で、生徒の学力間格差の広がりや抱える悩みの複雑化、進路目標の多様化に伴い、一人一人に寄り添った指導・支援を行うため、外部諸機関と連携し、組織的に課題解決を図る必要がある。また、集会等で対話を通して、生徒の規範意識や帰属意識、自己肯定感のさらなる向上を図る必要がある。</p>		<p>幅広い教養の獲得を促す学習指導と授業改善</p> <p>幅広い経験に基づく人間形成を図る生徒指導</p> <p>高い志を持って自己実現を図る進路目標の設定とその達成を支援する進路指導</p>	<p>生徒の主体性や意欲を引き出す学習指導を展開し、生徒が自ら課題意識や向上心を持って、粘り強く学習に取り組む姿勢を育成する。</p> <p>生徒の多様な学力実態を踏まえ、生徒の力を最大限伸ばすために、ICT機器や一人1台端末を最大限に活用して「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を推進する。</p> <p>時刻改編、観点別評価の運用、考査の見直し、学校行事の精選等、教育課程の改善を通して、生徒が充実感と達成感を持つことのできる教育活動を展開する。</p> <p>生徒理解を通して、一人一人に寄り添う「発達支持的」生徒指導を展開するとともに、問題行動等を未然に防止する「課題予防的」生徒指導を推進する。</p> <p>生徒の主体性を重視した学校行事や部活動を通して、自己の役割に対する責任感の醸成を促し、何事にも主体的に参画していく姿勢の育成を図る。</p> <p>多様なボランティア活動や地域貢献活動への積極的な参加を通して、母校と地域への誇りを高め、生徒の非認知能力と自己肯定感の育成を図るとともに、自らの生き方・在り方を考える契機とする。</p> <p>部課外の場外に併し、正課授業の中や家庭学習において、無理なく学習量を確保させるための工夫を行うとともに、長期休業中の集中講義を履修する生徒の習熟度に合わせた形態への見直しを行う。</p> <p>模擬試験等の的確な分析を行い、生徒の客観的状況の正確な把握とその共有を図るとともに、一人ひとりの可能性を引き出すための指導方法の研究を行う。</p> <p>3年間を見通して、大学入試改革に対応した学習指導の計画と実践に取り組むとともに、個々の多様な進路希望に対応する教科指導力の向上と組織的相談体制の整備を推進する。</p>		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教育推進部	教育計画課	本校の教育目標を実現するための学習指導について研究する。	主体的に学習に取り組む生徒の育成に必要な学習指導の充実に向け、各教科の支援を行う。		項目ごとの評価
	企画庶務課	教科・学年等と連携し、生徒が充実感や達成感を感じられる教育活動の展開を支援する。	授業改善や校務支援システムの研究を引き続き行い、生徒の学習活動を支援する。		
	広報課	本校の教育目標につながる、式典やPTAの活動を企画・実施する。	個に応じた弾力的な指導を行うための体制づくりを行う。		
生徒支援部	生徒指導課	高い規範意識と自律の精神、共感する心を持った生徒の育成を目指す。	調査のみによらない評価方法の研究や考査の見直しを進める。		学校関係者評価委員会からの意見
	保健環境課	学校行事や部活動への主体的な取り組みを通して、探求力やコミュニケーション力、チャレンジ精神をもった生徒の育成を目指す。	中高が一体となった式典やPTA活動ができるように、学年や他分掌と連携する。		
	進路指導課	生徒に自らの健康に関する意識を高めさせ、心身ともに安心できる生活環境を整える。	式典等において、対面実施とオンライン実施の両方を効果的に活用していく。		
研究開発部	キャリア教育課	継続的な感染症対策に加え、自ら意欲的に美化衛生活動へ取り組む姿勢を定着させる。	奨学金等の周知に努め、生徒の進路設計を支援する。		評価項目以外のものに関する意見
	研修課	新課程や多様な進路希望に対応し、目標達成を支援する進路指導を行う。	校内の机脚等の環境を整備し、厚生の充実を図る。		
	図書課	興味・関心、資質・能力を踏まえた進路選択および受験種類の選択ができる生徒を育成する。	ホームページ、インスタグラム等をタイムリーに更新し、内容の充実を図る。		
学年部	第1学年	「総合的な探究の時間」における探究活動の充実とレベルアップを図る。	中学校への情報発信、中学校訪問等の広報活動を強化する。		自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策
	第2学年	自己実現に向けて、幅広い視野を持つとともに、自身の興味関心を突き詰める機会を設定する。	積極的に外部と交流し、学校の良さをアピールし、発信する。		
	第3学年	教育改革や喫緊の課題に対応するべく、職員研修の充実と精選を図る。	生徒会や同志を募り、各種イベント、ボランティアへ積極的に参加を促す。		
学校いじめ防止基本方針	第1学年	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善、ICTの活用を推進する。	場に応じた清々しい挨拶を行うことができる生徒を育成する。		評価項目以外のものに関する意見
	第2学年	生徒の主体的な学びを支援する「学習情報センター」としての機能を充実させる。	安全な学校生活の確立を目指し、ルールやマナーを身につけた生徒を育成する。		
	第3学年	生徒及び図書委員会の協働的な活動を促す取り組みをし、「読書センター」としての機能を強化する。	行事や部活動に積極的に参加させていく中で、学年や学校を代表するリーダーを育成していく。		
全職員の共通理解の下、組織的にいじめを生まない学校風土作りを推進する。			生徒の状況を把握し、収集した生徒の情報を共有し、素早く還元するための方策を充実させる。		自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策
いじめ・不登校対策委員会が定期的に取組を検討・改善する。			スクールカウンセリングの相談活動を有効的に行うため、情報交換を密に行い、最良の支援を実施する。		
個人面談・教育相談を定期的・計画的に行い関係職員で連携し課題解決に臨む。			周りに対する感謝の気持ちや誇りを持ち、校内美化や環境保全活動に、積極的に取り組む生徒を育てる。		